

# 分苑たより

## なごみ

大本  
名古屋分苑

### 分苑長 水無月 月次祭挨拶

本日は水無月の月次祭にご参拝いただき誠に有難うございます。

私は、分苑長を拝命いたしました三年となりますが、至らなところが多々あったことと、思いますし、皆様には色々なご不満や、ご迷惑をおかけしたところと思っております。誠に申し訳なくお詫び申し上げます。

至らない私でしたが、参事役員の方々に始め、色々の役員の方々には大変なご指導とご援助をいただき、また信徒の皆様のご支援・ご協力をいただき、支えていただきましたこと、皆様には誠に有難く心より感謝申し上げます。

分苑長になって以来いつも、全ての信徒の皆様が喜んでご参拝いただける、お互いに好意をもって和合し、明るく気持ちの良い「みろく分苑」となるこ

とを願って参りました。全ての信徒の皆様お一人お一人が大神様の大切な信徒、神の子です。分苑はすべての信徒の皆様のもので、色々な理由から、分苑から足が遠のいておられる信徒様にも、是非全ての皆様に分苑にご参拝いただけるようにと願って参りました。

そして、後継者育成とお世話活動が最も重要な柱だと思ひ、青年部の活動、子育て世代の支援を願ひ、後継者育成プロジェクト会議をひらき、若い世代の方にも多くの方に、分苑行事にご参加していただきたいと願って参りました。これからという時期、任期後半は誠に残念ですが、新型コロナウイルスのため、祭典参拝者も行事も制限せざるをえない状況に迫り込まれ、思うような活動やお役に立つことができず、誠に申し訳なく思っております。

沢山の方々に分苑にご参拝

していただきたいという思いと、コロナ感染予防というジレンマのなかで、大変悩んで参りましたが、例えコロナ禍にあつてご参拝が叶わなくとも、心では全ての信徒の皆様とつながり、思い合っている分苑でありたいと願ってまいりました。

名古屋分苑の方々は、皆様本当に素直で温厚で優しく、色々な行事に協力的な方達ばかりで、笑顔で明るい、気持ちの良い分苑だと思います。

今、最も重要な大きな課題は、ご縁のある方に対するお世話活動を通じて、素晴らしい大本の教えを広め、お導きをするこゝと、特に後継者育成に取り組み、若い人達が信仰の道に進まれ、喜んで分苑の祭典・行事に参加され、のびのびと活動される、明るく活気のある分苑に発展していくことだと思います。

老いも若きも皆様の和合の力を発揮すれば、必ず願ひは達成され、分苑の教勢は発展していくものと信じております。

今後、新たな分苑長、役員のもと、信徒の皆様との和合の力を発揮され、新分苑長、新役員の方々を積極的に支え、協力していただき、名古屋分苑がますます素晴らしい分苑に発展していきますことを願って参ります。みんなの心が通じ合える、思いやりのある、温かく、明るい分苑であつて欲しいと思います。

最後になりましたが、各役員の方々に始め信徒の皆様には、至らない私でしたが、大変お世話になりました。本当に有難うございました。

### 行事報告

#### ●海津市 草引き献勞作業

六月六日

朝、東海地区は小雨模様で天気予報では午前中は小雨で午後から晴れとの予報でしたが、現地集合で9時半の作業開始前には雨は上がり清々しい天気になりました。

作業内容は一メートル以上伸びた草の伐採、お松の周りを綺麗に整地伐採した草を集約する作業をいたしました。



草が松におおい被さつており足元が不安定なため、松を踏まないように注意して作業を行い、昼前には晴天となりました。今が汗だくづくになりました。今回大変有難い事に2名の方から差し入れがあり小休憩にごちそうになりました。

女性参加者のため日比達郎様のトイレをお借りさせていただきました。作業が終わりこの近くの水晶の湯という温泉で入浴し、ゆっくり食事をして各自帰宅いたしました。

- 参加者 (女性3人 男性7人)
- 小林迪江様 高嶋フミ子様
- 高嶋徳美子様 中村幸夫様
- 小林清人様 畠山茂様
- 菱川義英様 鈴木克彦様
- 現場総監督
- 妹尾正治様 高嶋善雄
- 文責 高嶋 善雄

● 月始祭

六月五日（土）

参拝者 十六名

齋主 堀 和子

祭員 川地 貴子

進行 石田 和歌子

直心会の進行・祭員に

より執行

され、併せ

て企業繁

栄祈願祝

詞が奏上

された。



● 月次祭

六月二十日（日）

参拝者名 二十八名

齋主 山田 謙三

祭員 小林 清人

祭員 影近 博己

伶人 飯田 直美

進行 伊藤 久仁男

行事予定

七月十八日（日）

月次祭 午前十時半より

総代会 午後十二時より

八月七日

瑞生大祭遙拝祭 午前十一時より

（月始祭はありません）

● 津島支部

設立五十周年記念大祭

春季大祭

六月十三日、齋主・妹尾

正治支部長のもと執行さ

れた。参拝者十一名

津島支部は昭和四十六

年六月十五日に木曾川の

清き流れの郷に設立され

た。大本では八月七日に聖

師聖誕百年記念、瑞生大祭

が執行された年に当たり

ます。

祭典後は直会を頂き親

睦を深めた。今後も大家族

主義「和み合い慈しみ合う

支部」を継続していくこと

を皆で約束し終了した。



玉鉾神社に参拝して

特任宣伝使 堀 宜雄

五月二日の晴天の日、知多郡武豊町にある玉鉾神社に三河本苑松永孝司特任と車にて参拝する。神社は名鉄線JR線の駅より近い小高い山にこんもりと茂った森がある。入り口は階段のない緩やかな小径を上り詰めた所に本殿・社務所がある。当神社は明治三十二年十一月に創建され、孝明天皇をお祀りされた（全国では当神社と平安神宮のみ）

いきなりの参拝でしたが、玉串袋に大本の名を見て宮司さん（四代目旭形幸彦氏）が急遽お出ましになり内陣へ案内され、玉串奉奠、天津祝詞を奏上させて頂きました。思わぬ対応に感謝と申し訳ない気持ちでした。社殿に掲げてある古地図（創設時の神社・敷地）は大変な広さの中に立派な神殿が描かれている。宮司さんのお話によると東京ドームに匹敵する敷地でこの場所に決まるまでは言葉に尽くせないご苦労があったようです。明治二十年明治天皇が武豊の地に行幸され、我が国最初の陸海軍攻防演習を展覧された場所であり、伊勢神宮と熱田神宮の中間地に位置することから決まったようである。

創建者の旭形亀太郎氏は勤王・佐幕の論議が国内でやかましくなった頃、宮中警護の任につきその後、宮中警護力士隊の隊長となり元治元年七月蛤御門の変では錦の御旗を守り背中に銃弾を受けながら孝明天皇を御守り申し上げ、その功績により天皇から「神国の秘宝（切紙神示）」を伝授、「御宸筆の経綸書」「御旗（錦の御旗）」を托し賜る。天皇崩御後、孝明天皇創建に関しての御遺勅により神宮造宮に私財を投じ力を尽くされる。しかしながら創建には度重なる申請でも難航し、なかなか許可がおりず万策尽きた氏は、神示により明治二十九年丹波の国綾部の「ミロク大神」様のもとへ教えを乞いに行くより方途はないと決め、徒歩で大本教祖出口ナオ開祖に逢いに行かれる。当時社殿も無い小さな土蔵の家を尋ねられ、慇懃に平身低頭し、孝明天皇様の御神号をお願いするも、開祖様から「それは人違いです。どうぞ他をお訪ねくださるよう」と固辞されるも、更に一心にお頼みされましたところ「では神様にお伺いしてみましよう」との事でささやかな神床の前で礼拝されていました。暫くして「神様は『たまはこの神』と仰せられます」とのお言葉に、氏の喜びようは日頃どんな事にも動ずる方ではありませんが、この時は全く包み隠せぬ模様で、幾度も幾度も礼を述べられ勇んで帰途に就かれた。氏はアサヒビールの創始者でもあったが、武豊町に身を移し愛知県知事等周辺の賛同者を得て正式認可された。明治三十四年三月に六十一歳で急逝された後、周囲からの幾多の苦難を受け（大本事件との関連性もあったよう）六十年経過した時点では見る影もなくなり昭和三十九年三代目宮司就任から復興の道を歩み、孝明天皇の曾孫東久邇盛厚殿下の正式参拝もあり、尾張一宮真清田神社より幣帛を賜る等氏子を持たない総鎮守の神社として現在に至っている。参拝後も親しく懇談の機会を頂き又、写真のお願いにも「何処でも好きなように撮って良いですよ」との厚遇を謝し、良い雰囲気の中、清々しい気持ちで帰途につく。皆様も機会があれば、大本との因縁（開祖様・聖師様）ある神社に参拝されてみては如何でしょうか